

第2回令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会会議録

令和元年7月3日（水）9時00分～

委員長 皆様、おはようございます。本日は、お忙しい中ご出席いただきまして、まことにありがとうございます。

会議の開会に先立ちまして、傍聴の皆様にお願いがございます。お手元の傍聴要領をご覧ください。藤沢市教科用図書採択審議委員会の傍聴要領に従い傍聴くださいますようお願いいたします。

なお、この会議は公開であるとともに、審議の内容につきましては会議録作成の都合上、録音をさせていただきます。

また、本日、山田委員、小林委員につきましては、都合により遅れて委員会に出席する旨、承っておりますのでお知らせいたします。

それでは、本日の次第をご覧ください。今回ご審議いただく内容は、議題、「令和2年度使用小学校用教科図書について」です。

まずはじめに、藤沢市審議会等の会議の公開に関する要綱に基づき、会議録署名委員を指名します。

委員長の私の他に今回も、井上委員をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

井上委員 はい、承知いたしました。

委員長 ありがとうございます。では、井上委員、よろしく申し上げます。

続いて、本日の資料について事務局の説明を求めます。事務局、お願いいたします。

事務局

それでは、議題に係る資料について説明いたします。

第1回の審議委員会が終了した後、本日までの間に送付し、本日お持ちいただきました4点の資料についてご説明いたします。

1点目は、本審議委員会のもとに置かれました調査委員によって作成されました「小学校用（令和2・3・4・5年度用）『調査資料』」です。これは、県の通知及び本審議委員会の方針を受けまして、学校教育に関し十分な経験と知識を有する者のうちから本市教育委員会が調査員として57名を任命し、調査研究した結果をまとめたものでございます。今回、調査研究に携わりました調査員の氏名等につきましては、調査資料の最終ページに記載してございます。

2点目は、県より報告されました「小学校、義務教育学校の前期課程 教科用図書調査研究の結果（令和2・3・4・5年度使用）」です。これは、県の選定審議会のもとに置かれた専門調査委員会が調査研究した結果でありまして、選定審議会を経まして県教育委員会から本市教育委員会へと送付されたものでございます。

3点目は、「令和2年度使用教科用図書調査書まとめ」です。これは、各小学校長が自校の教師に県の調査研究の観点等に沿って調査研究させた令和2年度使用教科用図書調査書をもとに事務局でまとめたものです。各学校が調査の各観点に沿って、当てはまると思われる発行者に丸をつけたものを集計し一覧にしたものと、各教科、種目別の観点、及び本校の児童の実態や地域等の特性との関連の観点について、その教科書が適切である理由として各学校が記述した内容を発行者ごとにまとめ、一覧にしたものです。

4点目は、「令和2年度使用教科用図書意見書一覧表」です。これは、市民及び保護者向けに各小学校及び藤沢市役所本庁舎5階市民ラウンジにおいて教科書展示会を開催した際にいた

いた意見、感想を事務局でまとめたものでございます。なお、令和2年度使用教科用図書調査書と令和2年度使用教科用図書意見書は、令和2年度に藤沢市で使用が予定される教科用図書見本本とあわせてサイドテーブルに展示してあります。

委員長 ありがとうございます。
 ただいまの資料等の説明について、何か質問はございますか。

各委員 なし。

委員長 では、質問がないようですので、これから議事に入ります。
 議題、「令和2年度使用小学校用教科用図書について」を審議してまいります。

今年度は、令和2年度から令和5年度に使用する小学校の教科用図書の採択が行われることになっています。また、審議委員会が審議を行うにあたり、学校教育に関し十分な知識と経験を有する調査員を置き、調査研究を行わせました。本日までに、審議委員の皆さんには調査員が作成した調査資料に目を通し、調査研究を進めていただいているところですが、その調査資料の内容をもとに、各小学校の調査書のまとめ、県より出された教科用図書調査研究の結果等を使って審議を進めたいと思います。

 続きまして、審議の進行につきまして、何かご意見がございましたでしょうか。

古島委員 審議の進め方についてですが、こちらの市の調査資料の大きなまとめの3つの観点をもとに進めていくというのはいかがでしょうか。

委員長 ありがとうございます。ただいま、市の調査資料の3つの観

点をもとにしてという意見がございました。市の調査資料の3つの観点といたしましては、1つ目の観点が「編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、教科・種目別の観点」です。2つ目の観点は「分量・装丁・表記等」です。最後に3つ目の観点は「本市の児童の実態や地域等の特性との関連」となります。これら3つの観点のもとに進めてはどうかというご意見だったと思います。皆さん、いかがでしょうか。

各委員 はい。

各委員 お願いします。

委員長 ありがとうございます。それでは、種目ごとに3観点を踏まえて、各委員からご意見をこれからいただいきたいと思えます。

それでは、ご意見をお願いします。まずは国語からお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。それでは、三橋委員。

三橋委員 国語ですけれども、4者、教科書が出ているんですけれども、4者とも、主体的・対話的で深い学びとなるように子どもたちが見通しを持って学習できるように、それぞれ工夫されています。その中で、学習の進めやすさという点で、光村図書出版と教育出版の教科書について話をしたいと思えます。

どちらも題材の後の学習の手引きが充実しています。学習の手順を追ってわかりやすく記述しているので、子ども自身が学習を進める上での羅針盤として活用できると考えます。

その2者を比べますと、光村図書出版は、県の調査資料に、「対話的な学びの場面を具体的に提示したりしている」と記されているとおり、1つ1つの発問が具体的で答えやすいと思えました。

また、単元と関連した図書の紹介数も多く、読書活動を意識した単元づくりがどの単元でもされていると感じました。

委員長 ありがとうございました。他にご意見はございますでしょうか。では、長田委員。

長田委員 私も光村図書出版はよいと思いました。「心を、動かす。言葉が、動かす。」という方針のもと、確かな国語の力を育む工夫がされていると感じました。どの学年の児童にとっても本物に触れる質の高い題材が選択されていると感じます。市の調査委員からも活動に役立つ情報が多く、扱いやすいと報告があります。

 また、教育出版についてもめあてやねらいが明確に示されていて、児童の学習の道しるべとして有効であると感じました。

委員長 ありがとうございました。他にいかがでしょうか。田中委員、お願いします。

田中委員 まず、自分が子どものころに読んだ教科書の内容がまだ今も載っていて、うれしさと懐かしさを感じました。4者読んだのですが、特に、教育出版について意見させていただきたいと思います。それぞれの学びの下のほうに、自分がどう思ったか、友達はどう思ったかと、自然な形で意見を伝え合える場面が載っておりました。友達の話を聞くことは、自分も話すことにつながりますし、話すことは聞く力にもつながると思っています。友達の意見を聞いて自分の考え方を見つめ直す機会もありますし、共感するということはとても大事だと思いましたので、いいなと思いました。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。志水委員。

志水委員 私は、伝統や文化に関する教育の充実ですとか、あるいは語

彙を豊かにするという国語科の観点から見てみましたけれども、4者見てみまして、光村図書出版が工夫されていると思いました。光村図書出版の2年生以上にある「季節の言葉」という、春夏秋冬、年間で4カ所のページなんですけれども、2、3年生は挿絵とし、4年生は1年間の季節の行事、5年生は古典、6年生は二十四節気からというように、児童の発達段階に合わせて多くの言葉を選んでいます。

さらに、「短歌や俳句をつくってみよう」などというように、その言葉を使った活動を示しておりまして、年間を通して語彙を豊かにして、そして伝統文化に親しめるというつくりになっていると思いました。

また、分量・装丁・表記等の観点から4者を見てみたのですが、学校図書と教育出版は全学年上下の分冊になっています。軽量化されて持ち運びの負担は少ないつくりになっています。一方、光村図書出版と東京書籍は、1年生から4年生は分冊ですけれども、5、6年生は年間で1冊です。年間1冊ということは、重みはあるんですけれども、高学年になったなどか、中学校へのつながりという点では、特に、また学習の積み重ねが意識できる、そういったところではいいかなと思いました。

中でも光村図書出版は、冒頭に1年間で学習することが見やすい一覧表となっておりまして、子どもたちが主体的に学習を進める中で振り返ったり確かめたり、そんな活用もできるつくりになっていると思いました。

委員長 ありがとうございました。他にいかがでしょうか。それでは、山田委員、お願いします。

山田委員 私も国語に関しては、教科書を実際に開いたときに、保護者の目線としてどういうことを習っている状況になっているのか、どういう方向性で進んでいるのかが見えていくところが家

庭学習とのリンクにつながっていくのかなという観点と、あと、小学校4年生で都道府県の漢字が出てきますので、そこがどのように載っているのかという観点で見させていただきました。

光村図書出版の場合、私も子どものころから親しみのある教科書なんですけど、小学校1年生と6年生に表彰状が載ってあったりして、結構子どもたちにとって親しみやすい教科書になっているのかなという印象になっているのがまず1点です。

都道府県の部分に関しては、光村図書出版の場合は2分割で掲載がなされているんですけども、他の部分は2ページにわたって1ページに載っているという感じなので、どちらが先生方として使いやすいのかなというのをイメージした感じですか。ここは一長一短あると思います。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。それでは、中川委員、お願いします。

中川委員 私は、学習指導要領の改訂の要点を踏まえた点からお話したいと思います。私も教育出版と光村図書出版についてお話しします。

教育出版では、学習の課題を「確かめよう、考えよう、深めよう、広げよう」の4つのステップを示すことにより、児童が順を追って主体的に学習に取り組めるように学習の流れを工夫していると思います。自分の考えや情報を伝達するための教材として、さまざまな媒体を効果的に活用する題材が設定されていて、子どもたちが取り組みやすいのではないかと考えます。

一方、光村図書出版においても、題材ごとに学習の進め方がはっきりと示されています。児童が見通しを持ち、主体的に学習に取り組むことができる構成になっています。どの学年においても文学的文章や説明的文章は読みごたえのある題材を設定しています。文学的文章は、生命尊重や人間の尊さを主題にし

ていて、児童が国語に関心を持ち、興味を持って主体的に読み進めることができると思います。

例えば、6年生のはじめに取り上げる物語、「帰り道」は、思春期の入口を迎えた多感な児童が内容に共感しながら読み進めることができ、個人の価値を尊重する態度を養っている題材であると思います。

また、それぞれの題材では写真や挿絵を効果的に配置し、対応させて読んだり、表などを活用して考えを形成したり、まとめたりすることができるようになっています。

先ほど、田中委員や山田委員も触れていましたけれども、光村図書出版では、「くじらぐも」「スイミー」「お手紙」「白いぼうし」「ごんぎつね」「大造じいさんとガン」「やまなし」「海の命」など、親の代から長い間読み続けられている物語も多く、親子で同じ作品を共有し、家庭学習でも話題にしていることは、教科書を閲覧した藤沢市の保護者の多くが感想として持っていることと思います。

委員長 ありがとうございました。他にいかがでしょうか。和智委員。

和智委員 私の方からは、教科書の編修の工夫と、本市の児童との関連の2点についてお話ししたいと思います。

まず、教科書の編修の工夫という観点ですけれども、東京書籍の1年生の巻頭には、「とんとんとん」という単元があります。大きな挿絵にインパクトがあり、短い言葉とともに子どもがわくわくするような紙面が続きます。明るく楽しいイメージを持って国語の学習をスタートすることができるのではないかなと思いました。

また、光村図書出版の1年生の巻頭は、絵だけで何ページか進み、9ページ目に詩が登場するという構成になっていて、こちらからはじめて国語という学習に出会う子どもの関心を高め、

期待を膨らませる効果は大変大きいと思いました。

さらに、今度は高学年の方でお話ししますと、小学校での学習のまとめとして、話す、聞くの単元を工夫して、今の自分、これからの自分を見つめる機会が設定できるとよいと思っておりますが、東京書籍では、6年生で「町の幸福論」という単元があります。また、光村図書出版では、「私たちにできること」「今、私は、ぼくは」という単元があり、どちらも自分や地域を見つめて考えをまとめることに適していると思われま

す。また、本市の児童との関連という観点からお話ししますと、本市では中学校での平和学習に力を入れており、最近、修学旅行で広島を訪れる学校が増えています。光村図書出版では戦争と平和について考える読む単元が、他の3者より早く3年生以上から各学年に設定されています。中学校の学習に向けて意識を高めることができ、かながわ教育ビジョンにおける思いやる力の育成にも効果があると思いをしました。

委員長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。全体を通して何かつけ加えなど、ご意見はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、続いて書写のほうに移ってまいりたいと思います。何かご意見はございますでしょうか。それでは、井上委員、お願いします。

井上委員

各者ともさまざまな工夫が見られます。例えば、文字を書く姿勢について、合い言葉や体操などの形で各科のはじめに示して、定着を図る工夫をしています。また、ただ文字を書くということではなくて、主体的・対話的で深い学びにつながるように教材が用意されている点で高く評価できます。自ら見つけたり確かめたりしたことをさらに考えて振り返って、話し合ったりして生かしていくという流れを6年間を通して一定の言葉で

示して意識的な学習を促しています。

さらに、低学年では、楽しみながら繰り返して練習できるように、水書きシートを用意されている点もよいと思いました。

それらの中で東京書籍は、B5判よりも横幅が3センチほど広いA4判を用いています。全体的に書き込める部分が多くて、お手本も大きく、見やすい印象がありました。また、デジタルコンテンツを用いて、より詳しい内容や動画を見られる点が優れていると思いました。

他に学校図書では、都道府県の名前を日本地図と結びつけながら漢字で書くページがあったり、また、ローマ字表についても訓令式だけでなく英語につながるヘボン式も示していたりして、教科横断的な学習に効果があると思いました。また、毛筆のお手本を2ページ分使って大きく示している点も優れていると感じました。

もう1者、光村図書出版ですけれども、やはり同じように、お手本が大変大きくて見やすいですし、市の調査資料にもあったように、ノートや連絡帳の書き方のポイントであるとか、はがきや掲示物に字を書くというような実用的な演習が大変多く入れられているところがよいと思いました。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。田部井委員。

田部井委員 私は、分量・装丁・表記等の観点からお話しさせていただきます。

どの教科書も習得すべき知識や技能を系統的に配列し、適切な分量で硬筆と毛筆の学習が設定されています。毛筆の始まる3年生の教科書で見ますと、光村図書出版と教育出版は紙面に使われている色使いが落ちついているので、文字に注目して学習できます。両者とも朱墨の穂先で筆使いを示すなど、視覚的

に捉えることができるので、わかりやすいです。

また、キャラクターの動きや擬音語を活用し、リズムを体感しながら筆運びを楽しく学べるよう工夫されています。

構成の面から見ると、光村図書出版は文字が大きめで、各単元が見開き、または1ページになっています。すっきりとした構成ですが、「たいせつ」というマークを設け、「考える」「確かめる」「生かす」の3ステップで、どの児童にとっても何を学ぶのかがわかりやすいものになっています。

また、6年の書写ブックは8ページの構成で、6年間の学習で身につけたことを他教科や日常生活の中で生かせるようになっています。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

和智委員 私も子どもにとってわかりやすく理解が深まるような内容の工夫ということで、構成上の工夫をお話ししたいと思います。

学校図書の各単元が「確かめて書こう」「考えて書こう」「生かして書こう」の3段階に分かれています。それぞれ約1ページを使用しています。ページ数的には少し増えてしまっていますが、児童が学習の流れを意識しやすいページ構成になっています。

さらに、単元のまとめとして「ふり返ろう」というコーナーに自分の言葉でまとめるスペースがあります。

また、3年生以上の毛筆では各単元の教材が全て半紙と同じ大きさに掲載されていて、児童が活動しやすくなっているなと思いました。

光村図書出版では、井上委員も言及しておりましたが、書写体操の紹介や、別冊の書写ブックなどを通して各活動を大切にしようとする姿勢がうかがえ、自分で学習を振り返ることができるようになっています。

また、終筆（筆の終わりの部分）の特徴であるはねやはらい、それから、筆の流れを猫をキャラクターにした動きで端的にあらわして、児童にとってわかりやすく、関心を持てるようになっていて、児童に思いました。

また、児童の実態に即した内容についてお話ししますと、東京書籍、教育出版、光村図書出版は、既習漢字の一覧表が毛筆での掲載になっていて、毛筆での学習が日常生活と結びつきやすくなっています。また、教科横断的な学習について、井上委員からも少しお話がありましたが、私も他教科との関連性がある方が児童にとってより生活に生かしやすいのではないかと思います。

市の調査資料にも書かれています、各者ともにそのような工夫がされています。教育出版では2年、4年、5年の校外学習のまとめ、東京書籍では2年、3年で連絡帳や観察記録、光村図書出版では5年生の新聞づくりといったものが内容も工夫されており、各学年、藤沢市の実態に合った題材ではないかと思えます。

さらに、光村図書出版では、アイヌ文化や東日本大震災の翌日に発行した手書きの新聞など、神奈川教育ビジョンにうたわれている思いやる力、たくましく生きる力を育む上で効果のある題材が掲載されていて、多様な生活環境に生きる藤沢市の児童には大変適しているのではないかなと思えました。

委員長 ありがとうございました。他にいかがでしょうか。小林委員。

小林委員 うちの子は、養護学校に通っています。それで、自分の子が書写の教科書を開いたときに、書写をやることになったときにどうなるかなと想像して考えてみまして1点だけ気づいたことは、幾つかの出版者で水筆というのがありまして、これは墨ではなくてお水で書くというのを私ははじめて知ったんですが、

墨が手についてしまうことをすごく嫌って、過敏があります。なので、それがお水でできて、何でもできる点は、うちの子でもできるかなと感じました。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。全体を通してつけ加えなど、何かご意見はございますか。よろしいですか。それでは、続きまして社会の方に移りたいと思います。何かご意見はございますでしょうか。それでは、古島委員。

古島委員 社会科は、小学校3年生から始まる教科です。2年生までの学習の中では身近な人々や社会とかかわる生活科との関連があります。そういった教科間の接続の視点で見ると、県の調査資料の社会の7ページに示されているように、東京書籍は、生活科との関連が生活科で学んだことと、3年生で学ぶこととして明記されています。また、教育出版は、「生活科の学習をふり返ろう」というコーナーで何を学んだか、何ができるようになったか、どうやって学んだかというように整理されて示されています。このような構成の配慮が児童にとって取り組みやすいものと考えます。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。それでは、中川委員。

中川委員 私は、学習指導要領の改訂のポイントの点からお話しします。どの出版社も児童が主体的に問題解決学習を進めることができるよう、いろいろと工夫されています。その中で教育出版では、各単位時間の問いを、「この時間の問い」というふうにしています。単元のねらいとして、「みんなでつくった学習問題」が示されています。

また、東京書籍については、本時のめあてが具体的に示され

ており、子どもたちが学習課題を持ちやすいのではないかと私は感じました。「つかむ」「しらべる」「まとめる」「いかす」という学習段階をたどりながら、構造的に学習の流れが理解しやすいように工夫されていたと思います。

また、東京書籍ではDマーク、デジタルマークが目を引きました。URLか2次元コードから興味・関心を高めるコンテンツに入ることができ、家庭学習や発展学習につながる教育のICT化への対応がなされていると感じました。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。田中委員。

田中委員 3者とも、今自分が生きている時代だけではなくて、これから成長して自分が生きていくであろう時代の背景にある困難さまで考える力を身につけるところまで工夫されているなと思いました。

それは、環境問題ですとか、少子・高齢化や防災に絡めて、これから先に起こり得る危険なこともみんなで話し合っていく機会を工夫されているなと思いました。

その中で日本文教出版ですが、一番先にその学年で大切なことというページが載っています。これからこの1年でどんなことを学び、考えていくかということが先にわかるのはいいなと思いました。

あと、東京書籍は、5、6年生は2冊で構成されています。ランドセルの中が重くなって、1つ1つの科目がすごく厚くなってきていまして、2冊になることで子どもへの負担は少なくなるのかなと思う反面、2冊になることで、前に学習したことを振り返ったりすることが難しくなるのかなというのはちょっと懸念しました。

委員長 ありがとうございました。他にいかがでしょうか。三橋委員。

三橋委員 中川委員の話と関連してくるんですけども、教科書のページのつくり方という視点で話をしたいと思います。

3者とも単元の中での学習課程を考えて紙面構成をしています。その中で特に教育出版は、1時間の中の学習課程を考えて、基本見開き2ページで構成されていてわかりやすいです。その2ページの中の一番はじめが「この時間の問い」で始まり、最後に「次につなげよう」という形で、どのページも終わっております。

特に、6年生の歴史でも同じ形が使われているので、歴史の流れとか連続性がかみやすいのではないかと思います。

また、今も話に出ましたけれども、市の調査資料にもあり、教科書が各学年上下巻ではなくて1冊に日本文教出版と教育出版はなっています。1冊になっていることで、1年間を通して単元順を組みかえるなど、各学校で柔軟な教育課程の編成ができると考えられます。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。畠山委員。

畠山委員 私は、どの教科書が藤沢市の子どもたちに親しみやすいかという点で意見を述べさせていただきます。

と申しますのは、子どもたちは3年生になると自分たちの町を探検して、それから市、県へと広がっていくんですけども、その中で子どもたちは、自分の町、地域に関心や愛着を持つんじゃないかと思うからです。

そう見ていきますと、教育出版の教科書には、神奈川県であったり、藤沢市にゆかりのある人物や地域が大変多いことがわかりました。例えば、3年生の「わたしたちのまちと市」では隣の横浜市を取り上げています。また、「はたらく人とわたしたちの暮らし」の中には崎陽軒のシウマイづくりの工場を扱っ

ています。4年生の「水はどこから」では、相模ダム水系を扱っていて、その水が寒川浄水場、さらには藤沢市へと水が来ていることがわかるようになっています。

同じく4年生の「昔から今へと続くまちづくり」では、「地域に学校をひらく」という中で、小笠原東陽の話が載っています。さらに、「わたしたちの県のまちづくり」では、箱根の寄木細工が登場します。5年生は、県を越えて国土の勉強に入っていくわけなんですけれども、「日本の国土とわたしたちのくらし」では、藤沢市の八ヶ岳野外体験教室のある南牧村を扱っています。行ったことや見たことがあり、自分たちが暮らす地域となじみがある場所、そこが教科書に載っているということは、児童が関心を持って主体的に学びに向かえるのではないかと思います。

委員長 ありがとうございます。他にいかがですか。何か全体を通してつけ加え等、ご意見はございますでしょうか。それでは、小林委員、お願いします。

小林委員 教科書を見ていて気づいたことです。日本文教出版は、3年生から6年生まで教科書に登場してくる人物も一緒に成長しているところがおもしろいなと思いました。

あと、5年生で、教科書を今回はじめて見る中で、見比べるような形で読んだところもあったんですが、5年生の「高い土地のくらし」という部分で、2つの出版者が群馬県の嬭恋村のキャベツづくりを取り上げていまして、そこを見比べたときに、東京書籍がグラフとか表が手書き風になっていて、ちょっと温かみを感じて、読みやすいかなと感じました。

それと、5年生の教科書に自然災害というページがあるんですが、そのタイトルが「自然災害を防ぐ」「自然災害とともに生きる」「自然災害から人々を守る」と、それぞれタイトル

が若干変わっていて、私はこの日本文教出版の「自然災害から人々を守る」という言葉とその内容が、被災者の言葉も載っていて、すごくよく伝わるのではないかと感じました。

委員長 ありがとうございました。他にご意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、続きまして地図のほうに移りたいと思います。何かご意見はございますでしょうか。井上委員。

井上委員 東京書籍と帝国書院の2者がありますけれども、それぞれ編集の基本方針がしっかりと地図帳に反映されていて、必要なことが網羅されていると思います。そのうち、私は帝国書院の地図が視覚的に大変見やすいと感じました。また、最初に、「地図って何だろう」「地図のやくそく」というコーナーがありますけれども、そこで地図の成り立ちや、方位、地図記号、距離の求め方などをわかりやすく解説してある点も導入として非常に効果的であると思いました。

また、後ろの資料の部分で、先ほど社会科の教科書でも話題になりましたけれども、自然災害と防災について解説する部分があります。それを帝国書院の方は、さらに自分の地域の防災マップづくりにまでつなげているところがすばらしいと思いました。

さらに全体を通して、「地図マスターへの道」というクイズのようなコーナーが各ページにあります。そこにクイズのようなものがあるので、それに答えて、後ろのすごろくのようなこまを進めていく、そのこまを埋めていくというのがあるんですけども、ゲーム感覚で社会的な知識や見方、考え方を深められる工夫もよいと思いました。

また、調査資料にもあったように、そのコーナーは家庭学習にも生かせると思います。さらに、コンテンツメニュー、2次

元コードがあり、タブレットP Cでさらに資料が見られるようになってきているのも、これからの授業のI C T化に即していると感じました。

委員長 ありがとうございました。他にいかがでしょうか。山田委員。

山田委員 私も地図を手にしたときに、藤沢市のつながりというところが非常に関連づけやすいなというところが、本市を見た部分と、あと調査資料の部分の本市の児童の実態やというところに関して見させてもらった中で、やはり帝国書院の八ヶ岳の部分、非常に藤沢市とゆかりのある場所でもあるので、そういったところは学習に生かしやすいのかなと。そこも家庭の中で振り返るには非常にいいテーマになるのかなと感じました。

委員長 ありがとうございました。他にいかがでしょうか。一瀬委員。

一瀬委員 私も帝国書院の装丁、表記について1つお話しさせていただきたいと思います。

「広く見わたす地図」、それから、「〇〇地方」というページがあるんですけども、そこについては、山地と平野の色分けが必要最小限にされていて、全体的にととてもすっきりとした印象で見やすいなと感じました。眺めていても目にも優しい感じがしました。

それから、地方ごとの特産物のイラストがあちこちに入っているんです。野菜や果物とか、そういったものが入っているんですけども、小さい表記ながらも、とても色合いが工夫されていて、全体の中でもぱっと見て、ここにこういう特産物があるんだなというのがとてもわかりやすく表現されています。

色合いがすっきりしているということと関連しまして、その中に「～県」とか、そういうフォントがあるんですけども、

そのフォントもとても太くて見やすく、全体を見た中で目にぱっと飛び込んでくるような感じがしています。

地形、それからイラストとか文字等、地図の中にはたくさんの情報が入っているんですけれども、それぞれが認識しやすく、工夫されているなという感じがしています。

今回、3年生の児童がはじめて地図を手にしていくわけですが、その3年生の児童にとっても、とても適切であると感じています。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。中川委員。

中川委員 学習指導要領の改訂の視点から見させていただきます。

2者とも児童にとってわかりやすく、主体的に学習を深めていく工夫がいろいろなところに盛り込まれていると感じました。

まず、東京書籍の地図帳についてですが、冒頭にある「地図のぼうけんに出発！」というところは、見ていてもとても楽しくて、イラストと地図を見ながら、児童がさまざまつぶやきながら、主体的に調べ学習を深める様子が想像できます。

また、キャラクターが吹き出しでいろいろなページに登場し、その吹き出しで児童が自然に地図を見る視点を持つことができると思います。

一方、帝国書院の地図帳ですが、「世界の国からこんにちは！」というページがありまして、そこでは各国の特産とともに国名も記されています。国名が記されていることにより、児童がより手がかりを持ち、そのページに引き込まれるのではないかと考えます。

その他にも帝国書院は、先ほど井上委員も触れていましたし、市や県の調査書それぞれにも触れていられましたけれども、方位や地図が書かれた「地図のやくそく」というところが丁寧に

わかりやすく記されています。3年生の導入学年だけでなく、高学年になっても使い続けることができると思います。

それから、先ほど山田委員もおっしゃっていましたが、本市の児童の実態や地域等の特性との関連について触れます。市の調査資料にもあります。帝国書院には、高地の様子で、藤沢の小学5年生が毎年訪れ、授業でも扱っている八ヶ岳野外体験教室のある八ヶ岳南牧村についての記載があります。

また、「日本の歴史と世界文化遺産」のところでは、鎌倉の地図や切通しの写真が掲載されているところから、藤沢市の児童の実態にはより適しているのではないかと考えます。

委員長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。何かつけ加えなど、ご意見はございますか。よろしいですか。

それでは、続きまして算数のほうに移りたいと思います。何かご意見はございますでしょうか。畠山委員。

畠山委員

私は、入門期の算数の工夫についてお話しさせていただきます。

入門期の算数について、教科書でよいと思ったのが東京書籍です。1年生は上下に分冊されていますけれども、1冊目がA4判44ページという薄いものになっています。この薄さと大きさは、はじめて数を扱う数字の苦手な子どもたちにも苦手意識を感じさせない工夫ではないかと思いました。

しかも、このノートというか、教科書の中でブロックを操作したり、書き込みをしたりできますので、これ1冊で入門期の学習を進めることができます。

また、教科書とノートの役割2つを持っておきますので、机の上がいっぱいにならないで操作をしやすいところもいい工夫だと思いました。

1年生の後半にはノートづくりの例も掲載されていて、細かくステップアップしていけるところも魅力だと思います。

このノートづくりですけれども、算数マイノートとして各学年で取り扱われています。

このように、思考の過程や深まりをノートに書く習慣を身につけることで、主体的な学びや思考力、判断力の育成につながっていくのではないかと思います。

それから、算数は積み重ねが重要で、学年を重ねるほど難しいと感じてしまう子が増える傾向があります。そこで、既習事項を確認していくことが大事になるのですが、単元の始まりにその確認ができるという点でも、東京書籍はしっかりサポートができていたと思います。

また、教育出版は、どんな学習が始まるかなという導入部がとて楽しくて、子どもたちにも嫌だなあという苦手意識を感じさせない工夫がありまして、とてもよいと思いました。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。東委員、お願いします。

東委員 畠山委員もご指摘のように、算数は積み重ねの教科なので、学びの連続性を意識して、数学的な見方、考え方を焦点化し、スパイラルな学びを進めることが有効です。知識や技能の定着を図るため、各者とも補充や発展問題を設定しています。問題数や問題の難易度にややばらつきが見られました。

東京書籍の補充や発展問題は、問題の数が多過ぎず、問題の難易度がそれほど高くはないので、多くの児童にとってほどよく、使いやすいのではないかと思います。

挿絵が見やすいので問題のイメージもつかみやすく、問題を解きやすい工夫がされています。これは、児童が主体的に学習に取り組んだり、考えたりすることにつながりますし、基礎・基本の定着を図る指導がしやすい内容になっていると思います。

また、数学的な見方、考え方を明示し、単に答えを求めるだけではなく、考え方を意識させたり、他教科とのつながりを持たせ、児童の身近な生活の中にある算数に着目させたりすることで、考える力や情報活用能力を育む工夫がされているのもよいと思いました。

委員長 ありがとうございました。他にいかがでしょうか。一瀬委員。

一瀬委員 まず、教育出版について、学習指導要領との関連、内容、構成という観点から少しお話しさせてください。

まず、全学年にわたって主体的・対話的で深い学びになるよう、「はてな」「なるほど」「だったら」の表示がされています。単元全体が問いの連続になるように構成されています。

まず、子どもたちが課題に出会ったときに、はてなと問いを持ち、その問いに対して自分なりの考え方を持つこと、それから、その考えを持って友達と対話しながら解決し、その解決した後、さらに別の課題だったらどうだろうというふうに少しずつ深い学びに発展するという、算数科にとってとても大切な考え方を導く、そういった構成になっています。

また、考えるヒントや、既に学習した既習事項を確認しながら進めるような「学びのマップ」というのが設けられているんですけれども、子どもたちが未知の問題に出会ったときに自分の力で解決できるような学び方を身につけられるよう工夫されています。

また、「友達のノートを見てみよう」というコーナーがあるんですけれども、友達のよさを認め合う場面が設定されていて、算数科を通して、思いやる心、それから、他を認めるような心といった道徳科との関連も図っているところがとてもよいと感じました。

さらに、東京書籍についてなんですけれども、本市の児童の

実態ということ、そういった観点で考えたときに、市の調査書にもあるんですけども、粘り強く考えられるようにヒントが表示されています。また、自分の考えと比較したり、自分の考えたことを確かめたり、そういったことができるように構成されています。

本市の児童に段階を踏んで考える力を育成する、そういったことにとってもふさわしいのではないかと考えます。

委員長 ありがとうございました。他にいかがでしょうか。岩成委員。

岩成委員 私は、観点2の分量・装丁、表記等の点からお話しさせていただきます。

各者とも構成に関しては工夫されており、大きな差は見られなかったように思います。ただ、分量・装丁に関して言えば、低学年のうちにはできるだけ荷物は軽くして、通学の負担は少なくしたいと考えますので分冊のほうがよいと思います。東京書籍と日本文教出版は1年から5年が分冊で、6年生が1冊、学校図書は全学年が分冊となっています。

ただ、もちろん軽ければよいというわけではなく、分量という点でいえば、例えば、東京書籍のように巻末に、「おもしろもんだいにチャレンジ」を入れるなど、どの教科用図書も補充問題、発展問題を単元末に取り入れて大変充実させていると思います。

委員長 ありがとうございました。他にご意見はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、続きまして理科に移りたいと思います。何かご意見はございますでしょうか。古島委員。

古島委員 教科間の接続の視点で見ていきますと、理科は、小学校3年

生から始まりますが、2年生までの学習の中では、身近な自然とかかわる内容のある生活科との関連があります。そういった視点で見えていきますと、県の調査資料の理科のほうにも示されていますとおり、大日本図書では、生活科と関連した内容に、「生活科とのつながり」と明記されています。

また、教育出版では生活科で学んだことが明記されていて、これまでの学びと理科とのつながりについて子どもたちが意識できるように促していると思います。

委員長 ありがとうございました。他にご意見はいかがでしょうか。
長田委員。

長田委員 今の古島委員の接続という部分で、私も観点1について、中学校の立場からお話ししたいと思います。

この接続の部分は、よくよく考えていきたいことだと思っているんですけども、小学校で学習したことを、さらに専門性を高めながら繰り返し学習していくという理科の学び方の構造になっているという意味では、大日本図書、学校図書、啓林館、ともに中学校への接続についてはスムーズに移行できるように、単元や分野を工夫していると思います。

特に大日本図書については、図版、写真を含めた資料や科学的思考を深めるプロセスが構築されていると感じています。

委員長 ありがとうございました。他にいかがでしょうか。田部井委員。

田部井委員 私は、編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、教科・種目別の観点の観点からお話しさせていただきます。

どの教科書も、子どもが自ら考え、自ら解決することができるように構成されています。古島委員と重複しますが、各者と

も3年生は初めての理科学習ということで、生活科からのつながりとして、自然の観察からの導入になっています。いずれの教科書も写真が多く、視覚的にもわかりやすい構成になっています。

分量・装丁・表記等についても見やすく、読みやすいものとなっています。

教育出版の裏表紙には、どの学年も理科の安全の手引きが掲載されています。重要語には太字でマーカーが引いてあり、文字も大きく、読みやすくなっています。

次に、大日本図書ですが、実験、観察に伴う危険への注意については、朱書きの枠で囲ってインパクトのある表現になっているので注目しやすいです。注意は繰り返し掲載されていますが、なぜ危険なのかという理由まで載せてあるのでわかりやすいと思いました。

また、導入の写真に学校生活を使ったものが多く、写真や図版も大きく見やすいので、学習内容に集中できる教科書だと思います。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はありますか。岩成委員。

岩成委員 今回の田部井委員と同じく、私も、各者とも改訂の度に図や写真が大きく、見やすく、そしてきれいになって、構成の仕方、それから巻末の付録もいろいろ工夫されていると感じました。

本市の児童の実態や地域等の特性との関連から言いますと、啓林館と大日本図書で、6年生の「大地のつくりと変化」という単元で、地震によって土地が隆起した例というところで江の島が取り上げられているんですね。江の島というのは藤沢の子どもたちにとって、とても身近であり、親しみの持てる教材だと思います。写真の大きさ、美しさ、わかりやすさで子どもた

ちの目を引くという点では啓林館がよいかなどと思って見ていました。

委員長 ありがとうございました。他にいかがでしょうか。よろしいですか。

 それでは、続きまして生活に移りたいと思います。何かご意見はございますでしょうか。田中委員、お願いします。

田中委員 東京書籍ですが、「ポケットずかん」が実物大であって、イメージがしやすいと思いました。あと、保護者向けのメッセージであったり、Dマークから保護者と子どもが一緒に考え、共有できる仕組みがあるのもいいなと思いました。親子で話し合うことで、お互いに新しい発見につながり、3年生から始まる理科や社会につなげていけると感じました。

委員長 ありがとうございました。他にいかがでしょうか。東委員。

東委員 今回の学習指導要領の改訂では、就学前との円滑な接続が話題になっており、県の調査研究の結果にもありますように、スタートカリキュラムに特徴が見られました。その中で、今、田中委員もご指摘のように、東京書籍では、1年生にとってはじめての小学校生活を進めていくことを考慮して、幼稚園、保育所などでの学びを終えた幼児期までに育ててほしい子どもの姿が具体的に示されています。

 保護者が自分の子どもの状況を見とる共通の物差しとして使用できるので、これまでの生活や経験を振り返り、子どもの実態や課題に気がついたり、今後の学習に見通しを持つことに役立つと感じました。

 そして、情報活用能力の育成についてですが、生活科の学習を通して必要になる習慣や技能、学び方をまとめた資料ページ

が各者ともあります。その中で、東京書籍と日本文教出版では、気持ちの伝え方について扱っているのがよいと思いました。挨拶をすること、素直に自分の気持ちを伝えること、相手の話を聞くこと、相手の気持ちを考えることなど、具体的にスキルを示すことでコミュニケーション力を育むのに役立つと思いました。

最後に、本市の児童の実態との関連についてですが、家庭生活に関する活動についての学習内容を見てみますと、4者が家庭における家族のことを、そして3者、啓林館、東京書籍、日本文教出版が自分でできることを切り口としています。昨今、家族の形やあり方が多様になっているので、取り上げ方に配慮が必要になっていると考えます。

本市では、家族ではなく自分のできることの視点から学習していくのがよいと思いました。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますか。三橋委員。

三橋委員 私は、活動の広がりとか、3年生以降へのつながりという点で東京書籍の教科書について話していきたいと思います。

2年生の「まちたんけん」というページがあるんですけども、近所のお店から市の施設へと、3年生の社会科につながる視点の広がり方を示唆しています。また、活動範囲の広がりとともに、電車やバスの乗り方についても各者記述されています。電車やバスのマナーについて記述されている教科書は多いのですが、切符の具体的な購入方法や運賃の払い方まで具体的に示しているものは少ないです。その少ない中で東京書籍の教科書は、藤沢市内のバスの乗り方に一番合っていて、わかりやすいと思いました。電車やバスの乗り方の学習は、藤沢市が推進するモビリティ・マネジメント教育にもつながっていくと

考えられます。

もう1点、装丁という視点で学校図書の教科書についてもお話ししたいと思います。

学校図書の教科書は、視覚的にも低学年児童にわかりやすいように、他者に比べると1枚1枚の写真がとても大きいです。子どもたちの生き生きとした表情を大きく写しているので、写真を見ているだけでもわくわくして活動したくなってきます。魅力的な写真が多いので、子どもたちの活動意欲も高まると考えられます。よいつくりだと思います。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますでしょうか。岩成委員。

岩成委員 私は、生活科と、3年生から学ぶ理科とのつながりに着目して、この教科用図書を見たのですけれども、各者とも飼育、栽培に関する部分がともしっかり押さえられていました。特に東京書籍、大日本図書、啓林館の3者は先の学年につながる基礎的なところを大切にしている、子どもたちの学びの継続性ということが考えられているなと思いました。

巻末についています東京書籍の「ポケットずかん」、啓林館の「がくしゅうずかん」、大日本図書の「がくしゅうどうぐばこ」、これらはどれも子どもたちの学びをすごく後押ししてくれるものだと思います。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますでしょうか。小林委員、お願いします。

小林委員 まず、表紙を見たときに、大日本図書はでこぼこ感があったので、これは教科書をさわろうとするかなというふうに感じました。

それと、内容でお手伝いのことがどの教科書にも書いてあるんですが、学校図書がお手伝いの具体例がとてもわかりやすいと思えました。あと、啓林館は、「えがおになるのはどんなとき」という問いから、お手伝いをすることで家族の笑顔が見られるというふうにつなげていっていたところがよいと思えました。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、続きまして音楽に移りたいと思います。何かご意見はございますでしょうか。志水委員。

志水委員 音楽は2者になっていますが、私は表記、表現の観点からお話をさせていただきます。

音楽の学習では、歌唱とあわせて楽器も大事な表現活動の1つです。音楽の学習ではじめて楽器と出会うことになるんですけども、正しい持ち方や使い方を習得することがとても大切になります。楽器の扱い方の表記では、教育出版は楽器を持つ児童の姿ですとか、手元の写真を使っています。一方、教育芸術社は、そのような写真に加えて、さらにわかりやすいイラストを使っています。両方あることで、授業の一斉指導を補う、あるいは基礎・基本の定着を図るという面からも、より理解が深まると感じました。

その他に、教育出版では各学年の巻頭でにっぽんのうたを取り上げているページがあります。見開き3ページ分になるような大きな写真を掲載しています。美しい写真で、曲のイメージを広げるには有効です。

一方、教育芸術社は、市の調査資料にも示されていましたがけれども、教材が見開きで完結されるつくりになっていて、全学年コンパクトな大きさを持ち運びがしやすいと思えました。

また、紙面も白を基調にしていまして、歌詞の書かれているページは背景と文字の色にコントラストがつけてあって、児童によっては、とても歌詞の判別がしやすいつくりになっているなというふうに感じました。

委員長 ありがとうございました。他にご意見はございますでしょうか。和智委員。

和智委員 私は、内容についてお話しさせていただきますが、教育出版では、曲づくりに重点を置いているように思いました。1年生でリズムづくり、4年生で「お話し役1、2」「ささえ役」「かざり役」という呼び方で、旋律、副旋律など、役割を意識した曲づくりを行っています。6年生では「動機」という言葉が出てきますが、それを意識した曲づくりを行うように設定していて、主体的、協働的な学習を行うことができます。ですが、藤沢市の児童には若干難しく、活動には時間がかかるかなと思われました。

一方、教育芸術社の曲づくりに関する活動では、4年生で音を限定した中での曲づくり、5年生で打楽器を使ったリズムづくり、6年生で和音の中の音を選ぶ形式の曲づくりになっていて、演奏する楽しさを味わいながら、スモールステップで無理なく学習が進んでいます。この点については、市の調査資料にも載っておりますが、藤沢市の児童の実態に合っていると思われれます。

また、教育芸術社では多様な教材を掲載していて、児童の実態に合った教材を選んで主体的な学習を進めることができると思われました。

委員長 ありがとうございました。他にいかがでしょうか。長田委員、お願いします。

長田委員 それでは、中学校の音楽を一応専門でやってきたので、その立場からということ。

 どちらの教科書も児童が音楽に親しむための工夫が随所に見られています。音楽的な見方・考え方を働かせて、生活や社会の中で音や音楽、音楽文化と豊かにかかわる資質・能力を育成することを目指していると思いました。

 内容についてさらに吟味すると、教育出版は全体に大まかに捉えて音楽の魅力を示している様子に比べると、教育芸術社は、かなり深く研究を重ねた専門性があり、現場にあったつくりになっていると言えます。発達に応じた歌唱、器楽、鑑賞の捉え方、創作についても、今、和智委員からもありましたけれども、大変小さなステップでわかりやすく、中学への接続も非常に丁寧な編修されていると感じました。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

 それでは、続きまして図工に移りたいと思います。何かご意見はございますか。畠山委員。

畠山委員 図工の方は2者ありまして、開隆堂、日本文教出版ともに子どもたちの創意あふれる作品づくりの工夫がされていると思います。私は、学校によって差が出やすい造形遊びについて見てみました。2者とも大変ダイナミックな楽しい活動が掲載されていますが、藤沢の、特に住宅や商店などに囲まれたような、ちょっと学校の敷地が狭いような、そして、校庭の木々がちょっと少ないというような、外での活動がしにくい学校も多いのではないかと思います。その中で、日本文教出版の教科書では、外での造形遊びだけでなく、同じ題材目的を持った造形遊びを教室で行う方法を紹介している点がよいと思いました。

それから、日本文教出版では、5年生で「形が動く 絵が動く」というアニメーションにつながる題材がありました。ものや人などを動かして、カメラでこま撮りをするというようなものなのですが、アニメーションが映像文化として認められていて、日本がその第一線にもあるということを考えると、子どもたちが意欲や関心を持って学べるのではないかなと思います。

また、ICT教育と関連づけたり、アニメーションの理解につなげたりとか、学習も広がるよい題材だと思いました。

委員長 ありがとうございました。他にご意見はありますか。
和智委員、お願いします。

和智委員 私は、表記の点について少しお話しさせていただきたいと思
います。

どちらの教科書も各単元にわかりやすくめあてが表示されて
いて、めあてに沿って活動が広がり、深まるように工夫されて
いました。開隆堂のほうは、めあての文言も何々しようという
児童目線の表記になっていて、より児童がめあてを意識しやす
いと思われれます。

また、どちらの教科書も全学年に共通するマークを用いて、
必要な材料や道具を端的にあらわしたり、刃物などを使用する
活動では、危険性を知らせるコーナーを工夫したりと、安全に
主体的な造形活動を進められるように十分配慮されているよう
に思いました。

ただ、開隆堂の方がマークに道具の名前等も明記してあって、
よりわかりやすいのではないかなと思いました。

委員長 ありがとうございました。他にご意見はありますか。田部井
委員。

田部井委員 両者ともに造形的な見方・考え方を働かせ、生活の中の形や色、色と豊かにかかわるための趣旨と工夫が多く見られます。特に、日本文教出版の「ひらめきポケット」は、日常何気なく見ているものを造形的な視点で捉えることで、新たに見えてくる色や形の発見があり、とても興味深いものでした。

一方、開隆堂については、学習のめあての1つにキャラクター「くふうさん」が使われ、形や色の工夫ができるように示されています。児童にとっては親しみやすく、わかりやすいものだと思いました。

また、鑑賞の題材では、見る、聞く、さわるなど、五感を使って形や色を幅広く、より身近なものに感じ取らせるよう工夫されています。特に、絵から聞こえる音は、聞いて感じた音を形と色で表現するという題材で、鑑賞と表現を相互に関連づけて学べる点もよいと思いました。

また、地域との関連からお話ししますと、開隆堂の「みんなのギャラリー」では、茅ヶ崎アートペイントや横浜美術館の子どものアトリエが掲載されているので、本市の児童は地域とのつながりをより身近に感じることができると思いました。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますか。よろしいでしょうか。

それでは、ここで10分間ほど休憩としたいと思います。
10時25分になりましたら審議を再開いたします。

それでは、休憩といたします。

午前10時13分休憩

午前10時25分再開

委員長 それでは、審議を再開いたします。

続きまして、家庭科に移りたいと思います。

それでは、何かご意見はございますでしょうか。

古島委員 家庭科は、東京書籍と開隆堂の2者です。両方の教科書ともに写真やイラスト、図などをふんだんに用いて児童の理解を促す働きかけをしています。実習で気をつける内容についても、どちらも安全マークというように強調して、子どもの意識を向けるように促しています。

学習の見通しを持つという視点では、県の調査資料、家庭科1ページに示されていますように、東京書籍は、学習の流れを3つのステップで示していき、主体的に問題解決に取り組む見通しを提示しています。また、「めあて」と「ふり返ろう」ということも明記していき、児童が確かめながら学習を進められるように促しています。

開隆堂は、県の調査資料の家庭の2ページに示されていますように、それぞれの題材の問題解決のプロセスに沿って3つの小題材で構成して、主体的に問題解決に取り組む見通しを提示しています。

また、キャラクターのつぶやく吹き出しで生活の見方、考え方の中で重視する視点を示して、学習に見通しを持てるように促しています。

今回の学習指導要領の改訂で新設されました「家族・家庭生活についての課題と実践」についても、両教科書ともに取り上げられていて、東京書籍では「生活を変えるチャンス！」として、実践をレポートや新聞などにまとめる例を提示しています。開隆堂は、生活の課題と実践として複数の課題が掲載されていて、その中から児童が選んで実践できるように設定されています。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますでしょうか。志水委員。

志水委員

私は、まず分量・装丁の観点からお話をしたいと思います。

両者はサイズが違います。A4判の東京書籍は大きいために実物大の写真を巻末に載せておりまして、大変わかりやすいつくりになっています。一方の開隆堂はA5判でコンパクトです。調理や裁縫など、実技や道具の多い教科であるので、子どもたちの机の上にもいろいろ置くという部分では、A5判の大きさは学習の実態に合っているサイズかなというふうに思いました。

次に、中学校との関連についてということでお話をします。東京書籍は、関連する内容にはマークをつけたり、5年生と6年生の最後にまとめのページを設定していて、学年間や中学校への接続がスムーズになるように配慮されています。

開隆堂は、市の調査資料にもありましたけれども、2年間をまとめて振り返り、中学校への学習につなげるページが設定されています。児童は、中学校への学習に期待が高まり、また、教員にとっても中学校の学習との連携が意識できる、そういったつくりになっていると思いました。

委員長

ありがとうございました。他にご意見はございますか。田部井委員。

田部井委員

児童の実態や地域などの特性との関連からお話しさせていただきます。

現在、多様な家族形態がある中で、東京書籍は家族とのかかわりだけではなく、地域の人々とのかかわりを広げ、深めていくよう工夫されています。高齢者や小さな子ども、異世代の人々との交流や、東日本大震災で被災した児童の取り組みの掲載は、本市の児童が具体的なイメージを持って、これからの生活の中で地域の一員としてできることを考え、深めていくことができます。

次に、両者とも伝統マークを用い、日本の生活文化に関する内容を取り上げていました。特に、開隆堂は日本各地に伝わる味噌やおやつ、雑煮などが一覧掲載してあり、地域の特色や違いがわかりやすいと思いました。関東風雑煮や神奈川県へのへらだんごなどは、本市の児童にとって身近な地域の文化に触れることができます。

また、両者ともキャリア教育の視点での掲載があり、学習した基礎、技能が仕事につながっている事例を挙げていました。その中で開隆堂は、フィギュアスケートの羽生選手や宇野選手の衣装制作にかかわる人の紹介をしていました。児童は、憧れや親しみを持って将来の仕事や生き方に関心が広まっていくと思いました。

委員長

ありがとうございました。他にご意見はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、続きまして保健に移りたいと思います。何かご意見はございませんでしょうか。岩成委員、お願いします。

岩成委員

保健ですけれども、それぞれどの教科用図書も指導要領に準じた編成で、よくまとめられていたと思います。その中で、子どもたちが学習するに当たってこの教科用図書を開いたときに、ぱっと目と頭に入ってくる教科書は、学研教育みらいと光文書院のものでした。学研教育みらいは、1時間の流れがはっきりしていて、その中で子どもたちが考えを書き込むこともできるつくりになっていました。また、光文書院もイラストを多く用いたり、決まったレイアウトにしたり、子どもたちが学びやすくなる工夫がなされていました。

内容も、2者とも、いじめや心の問題、がん教育、飲酒、たばこ、薬物乱用防止など、今日的な課題にもしっかりと向き合っていると感じました。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますか。田中委員、お願いします。

田中委員 保護者の視点からです。学研教育みらいと光文書院は、たばこ、飲酒、薬物の体への影響が実際の写真を使って示されておりました。子どもたちに、いくらこれはやっちゃいけない、だめなんだよ、体に悪いんだよと伝えるよりも、実際にこうなってしまうんだということが目で見てわかった方が、ちょっとインパクトの強い写真でしたけれども、よくわかるのではないかと思いました。

 その薬物であったり、たばこや飲酒の影響が自分の体だけではなく、それから先の新しい命への影響にまでつなげられていたので、よかったと思いました。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますでしょうか。中川委員。

中川委員 私も光文書院と学研教育みらいについてお話しさせていただきます。

 私は、構成の面からお話しします。光文書院は、巻頭でオリンピック・パラリンピック選手のメッセージを載せています。児童がこれから始まる学習への興味・関心を持ちやすいと感じました。また、「単元のとびら」では、4コマ漫画で学習内容をストーリー形式で示していました。何のために、何をどのように学ぶかがわかりやすく理解できると思います。

 学研教育みらいの構成ですが、1単位時間を見開き2ページで扱っています。学習の流れがわかりやすく、児童も学習に入りやすいと思います。「つかむ」「考える・調べる」「まとめる・深める」の構成で学習を進めていて、見通しを持って学習

が進められると思います。市の調査資料にも同様な記載がありました。

また、「友達と」マークや「共有」を表すマークを配置しています。他にも、自らの生活を振り返りチェックする活動を設けたり、「かがくの目」「もっと知りたい・調べたい」という項目が設定されています。児童が教科書に親しみやすく、主体的に取り組める工夫が随所に見られました。

委員長 ありがとうございました。他にご意見はございますか。志水委員。

志水委員 私は、保健の生涯にわたって心身の健康を保持増進する態度を養うという観点からお話をさせていただきます。

ここ近年、学校生活の中でも配慮している熱中症のことについては、どの者も扱っていましたが、扱い方に違いがありました。文教社ですが、ここは1ページを使いまして、熱中症になりやすい環境や危険信号、フローチャートによる手当ての方法、予防までを詳しく解説しています。

また、学研教育みらいは、他の者が記載している予防方法や手当てだけではなくて、どのようなときに熱中症になるのかを最初に提示しています。文教社も学研教育みらいも熱中症の危険について、単に予防だけではなく、児童自らが考え、判断する材料も提示している点で工夫されていると思いました。

次に、市内小学校の実態から、各者の心の健康、特に、児童が困ったり悩んだりしたときにどうするとよいか、相談相手としてどのような人々を示しているかという点から見てみました。

各者共通して、相談相手には家族、友達、先生を挙げて、また、外部の相談機関の電話番号などを紹介しています。その中で、学研教育みらいは、最初から登場人物の中に男女のスクー

ルカウンセラーが入っておりますして、スクールカウンセラーの言葉を吹き出しで紹介するなどしています。

本市では、全小学校にスクールカウンセラーが派遣されておりますして、身近な相談相手として子どもたちにも浸透してきている、そういった実態に合っているのではないかなと感じました。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、続きまして英語に移りたいと思います。何かご意見はございますでしょうか。東委員。

東委員 外国語の目標は、外国語におけるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通し、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することです。

3、4年生での外国語活動の学習から、教科としての外国語、英語への円滑な接続に向けて、各者それぞれ工夫がありました。現行の「We Can!」を意識した内容や構成になっているものや、15分程度の短い時間での学習活動に対応できるものが多いとも感じました。

内容、構成の点から光村図書出版と学校図書についてお話しします。光村図書出版では、市の調査資料にもありますように、スモールステップで進み、基礎・基本の定着も意図し、英語学習の観点に沿った学びの構成が整理されていると感じました。

初期の英語学習で自分のことから表現できることを徐々に広げていくという流れはとても自然で、親しみやすい活動場面が想定されているのがよいと思います。

そして、物語が多く取り入れられ、「おむすびころりん」の英語版も入っています。物語を通して、ある程度の量のある英

語に触れることはよいことで、特に親しみのある日本の昔話は理解しやすいので、英語の理解に自信を持って楽しく学習を進められると感じました。

また、721語の英単語が使われていますが、単語の選定に工夫している点が評価できます。中学校以降で学習する単語に生活語彙が少ないことが表現力の伸長に影響しているとの考えもあるので、語彙の選定は重要だと思います。

また、絵辞典の形で日本語を介さず単語を理解させたり、使用場面を与えて単語の使い方をわかりやすく示していたりするので、的確に理解させ、表現力を育むのに役立つと期待します。

学校図書でも、巻末の単語リストやワードコーナーで名詞や前置詞の使い方など、日本語にはない英語の特徴をしっかりと押さえて自然な形で示すよう工夫されていて、とてもよいと思いました。

また、繰り返しを意識して文字指導などを丁寧に行っている点、歌、お話など、多様で意味のある活動がたくさん用意されている点も魅力があると思います。

委員長 ありがとうございました。他にご意見はございますか。長田委員。

長田委員 今、東委員は専門的な見地からということでお話ししてくださったので、私はさらに、小学校から今回英語が入るところでは、どの教科書も自分が児童だったらどうだろうという目線で、とにかくページをめくってみました。

QRコードを使っているところが非常に現代的というか、今当たり前前になっているかもしれないですけども、自分も使うことが増えているなと思いながら、実際にそれを使ってスマホで発音してみました。どれもすごく楽しかったんです。活用については、今の時代だからこそうまく活用していきたいなと感

じましたし、もしこういう形で勉強できたら、自分は英語がしゃべれるようになったのではないかと思うほどでした。

家庭によっては利用できないのではないかという心配もあるかと思いますが、タブレットが利用できる機会を学校としても保障しつつ、図書館や公的な機関でも活用できるようにしていけば、児童にとって環境はよい方向になるのではないかと思います。

教育出版以外の6者は、全てQRコードを採用しているので大変効果的だと思いました。また、開隆堂、三省堂については、中学校の英語の教科書で培ってきた内容の濃さが生かされていて、何を学ぶかを踏まえて小学校での導入教材を構成しているというふうに感じました。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますか。山田委員。

山田委員 私は、教科書を見たとき保護者の目線というところを意識して、この外国語を小学校5年生から学ぶというところのスタート時点の意味づけがどういうふうに伝わるかなという観点で見させていただきました。

啓林館と光村図書出版と、あと三省堂さんの教科書に関しては、英語を使うと、こういう世界観が広がるということが教科書の冒頭部分に見えるビジュアルが結構多く使われていて、そのストーリーから英語を学ぶというところがしっかりスタートアップしやすいのかなというふうに感じました。

あとは、東京書籍は、別冊が使われたりとか、いろいろ工夫なされている中で、やはり英語に親しんでいく、英語をツールとしてしっかり活用できるところが各者とも配慮されていると感じました。

委員長 ありがとうございます。他にご意見は。古島委員。

古島委員 今、山田委員もおっしゃったところと共通する部分があるんですが、小学校では3、4年生で外国語活動を導入して、聞くこと、話すことを中心とした活動を通じて、外国語に慣れ親しむですとか、学習への動機を高めるということにずっと取り組んでいるわけで、5年生からの文字を読むこと、書くことを加えて、総合的、系統的に扱う教科学習につながってくるということになります。

5年生の英語は教科の入口となるわけですから、段階的に英語の表記が増えていくような教科書が児童にとっても抵抗感が少なく、新たな教科の導入ができるものというふうに考えます。

そういった視点で見ると、どの教科書も工夫されているんですが、特に、東京書籍はA4判で写真やイラストが大きく、学習のめあても日本語で明記されています。また、教育出版はイラストや写真で始まっていて、少しずつ文字に触れる、そういった流れが示されていると思いました。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますか。一瀬委員。

一瀬委員 私は、装丁というところで、啓林館についてお話をさせていただきます。

ぱっと見たときに、どの教科書もそれぞれ特徴があると思うんですけども、啓林館については、教科書の随所に設定されているワークシートがあるんですね。自分の考えに合う言葉を選びながら例文を見たりして、直接そこに書き込めるような場所があちこちにあるなというふうに思いました。文字を書くということには、まだまだ慣れていない子どもたちにとって、考えたことをすぐ書けるという構成はとても取り組みやすく、基

本的な表現とか、語彙、文字を書くことに無理なく進んでいけるんじゃないかなというふうに感じています。

また、同じく啓林館の本市の児童の実態を考えたときに、横浜のベイブリッジが取り上げられています。ベイブリッジ、横浜というのは、本市の児童にとっても、いろいろな行事のときにも通るような場所ですし、とても親しみやすく、外国語というところに意欲を高める内容につながっていくんじゃないかなというふうに考えています。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。田中委員。

田中委員 私も啓林館について意見させていただきます。

大きさは小さいほうのサイズなんですけども、広げたときとか、さわった感じ、めくった感じが一番なじみやすいというか、扱いやすい教科書だなと思いました。見開きにしたときにも、しっかり見開きになって、一番最初の単元、この啓林館ではユニットと表現してましたが、ユニット部分の導入編が見開きで1つの絵になっていて、そのイラストの中からコミュニケーションが生まれてくるような工夫がされていました。

その後文字を書いていたりですとか、書き込めるスペースがいっぱいあって、実際、それぞれの教科書を見たときに、5年生、6年生と見て、6年生の最後にこんなことまで求められてるのかと最初驚いたんです。

ただ、ステップがとても緩やかで、苦手意識をなくすようなイメージがあったのが啓林館の教科書だったと思います。とにかく中学校に入るまでに英語が苦手という意識じゃなくて、とても楽しいものだと思って中学校の英語に進んでいけるような授業にしてほしいなと思います。

あと、QRコードで音声、ネイティブな発音が聞けるというのはびっくりしました。やっぱりやっけていて親が教えられない

もので、家に帰ってきてから一緒に確認できることはとてもいいなと思いました。

委員長 ありがとうございました。他にご意見はありませんか。井上委員。

井上委員 各者とも小学校学習指導要領改訂の要点を踏まえて、英語の4技能5領域について目標が達せられるようによく構成されていました。実際のコミュニケーションにおいて活用できる英語の基礎的な技能を児童が楽しみながら身につけられるように、さまざまな活動や、それらに伴う巻末のカードとかシートなどについても非常に使いやすく工夫されています。

私は長く中学校で英語を教えてきましたけれども、小学校の英語教育が始まり、小学校の先生方に英語を教えていただくことになりました。私は小学校の段階で最も重要なことは、英語の音声や文字、音とか文字というものについて慣れ親しむということ、そして何よりも、先ほど田中委員からもありましたけれども、英語を使うということを楽しむ姿勢を身につけることだというふうに考えています。

日本に生活していると、実生活では特に英語を使用する必要がないわけなんですけれども、そういう環境にある児童に実用的な英語による運用能力を身につけさせるためには、やっぱり、まず、授業の中で目的を持って実際に英語を使う必然性のある場面や状況をきちんと設定する。余りわざとらしくなくというんでしょうか、必要があってという場面を設定する。そして、英語で伝え合える喜び、ふだん日本語で話している者同士で構わないので、英語で伝え合える喜びを実感させることが非常に大切です。

そうすることによって、授業以外のところでも英語を使ってみたりとか、それから、自分でもっともっと学んでみたりする

という意欲を持たせることができます。

そういう点で教科書を見たときに、東京書籍と光村図書出版は、非常にうまく構成されていると思います。2年間の教科書のレッスンの並べ方についても、習得させたい表現や文法が優先されて、流れとして余り脈絡なく並んでいて、今日はこれ、今日はこれ、というふうに配置されているよりも、やはり2年間の流れというものが大事なのではないかなと思います。

この2者については、徐々にまず自分のこと、そして、身の回りのこと、次に地域のこと、日本のこと、世界のこと、さらに自分の未来のことという流れで並んでいるんですけども、そういうことが実際に英語を使えるようになっていく自分であるとか、英語によって広がっていく世界をイメージしやすいというふうに思います。

特に、東京書籍については、5年生のはじめに、英語を使って自分がどうなりたいのかということを書かせるところがあります。2年間で段階を追って、常に英語を使用する場面や目的をはっきり意識させて表現させている、そういう点が非常に優れていると思います。

また、多くの方がご覧になったと思いますが、*「Picture Dictionary」*という別冊がありまして、語彙とか基本文型がまとまった別冊があるんですけども、英語の基礎の習得であるとか、それから表現活動の虎の巻として大変有効であるというふうに感じました。児童はもちろん、小学校の先生方にとっても使いやすいのではないかと思います。

また、先ほど長田委員や田中委員が触れられたQRコードを用いて、スマートフォンやタブレットなどで音声や映像が繰り返し視聴できる工夫についても、外国語の習得という観点から見ると、児童が興味を持って何度も繰り返して英語に触れることは大変効果的でありますし、必要なことです。その点でも、やはり東京書籍と光村図書出版は充実していると思います。特

に東京書籍は、音だけではなくて、教科書のページに即して、その教科書に出ている絵に似た人物が登場する実写の映像があって、しゃべって聞かせるとか、内容が非常に優れていました。

光村図書も充実していたんですけれども、逆に、練習問題のような部分も聞けてしまうので、授業の中で扱いたい部分をもう既に自宅で聞いてしまっている児童とそうでない児童との差異が生じてしまうおそれがあるかなというふうに感じました。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございませんか。小林委員。

小林委員 今井上先生のご意見にすごく賛同して聞いていたんですが、私からもちょっと補足的に細かいこととお話しします。

まず、5年生が最初にはじめて教科書を開くというふうに想像して、どの出版者の教科書も開いてみたところ、私が感じたのは、東京書籍の英語を使ってコミュニケーションをとるときには、まず自分を知る、国を知ることが、伝えたいことがわかると最初に感じました。

次に、自分が英語を学んでいくということを想像しながら見ていくと、東京書籍の「ことば探検」というコーナーがあるんですが、すごくそれが印象に残ることが多くて、例えば、自分を中心に家族の英語表現だったり、あと、ローマ字と英語の違いとかも載っていたりとか、ああ、なるほどなと思うことが結構東京書籍には載っているなと感じました。

あと、光村図書出版、これも「4つの『たいせつ』」というところで、スマイル、アイコンタクト、クリアボイス、レスポンスという「4つの『たいせつ』」が挙げられているんですけど、これは英語を話すときにとっても大切なことだと思ひまして、でも、これって恥ずかしいことでもあって、英語でこれを行うのは、最初に先生と話したり、お友達と実際英語で話しましょう

となったときには恥ずかしいことなのかなと。ただ、ここを乗り越えると表現が身についたりもできていくのかなと思うと、やっぱりこれは大切なことだとすごく感じました。

それと、これは2つの出版者ではないんですけれども、国語の教科書に出てきた内容、例えば「お手紙」とか「おおきなかぶ」とか、それが英語版になっているものを読んだときに、最初に物語がわかっているの、何となく英語も入ってくるというような感覚が自分にありました。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、続きまして道徳に移りたいと思います。何かご意見はございませんでしょうか。三橋委員。

三橋委員 道徳ですけれども、学習のめあてとか手引きという視点で話をしたいと思います。

8者とも、書き方は違うんですけれども、題材の前や後にその時間に考えてほしいことについて記してあります。市の調査資料にも記してあるのですが、光村図書出版と教育出版は、その題材について考えるだけでなく、「つなげよう」「ふかめよう」と、授業が終わった後も自ら考え、行動していくように示唆していて、とてもよいと思いました。

特に光村図書出版は、発展的な学習を意識してさまざまな活動を紹介してあり、幅広い思考や活動ができると考えます。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますか。畠山委員。

畠山委員 私は同学年で全ての者が掲載している共通教材を通して、その工夫について見させていただきました。同学年に全者が掲

載している共通の教材は1年生の「かぼちやのつる」だけだったんですけれども、教育出版や東京書籍では、絵と吹き出しで物語を展開させていて、漫画だったり、紙芝居風のつくりになっているので、文章を読むことが難しい1年生にも抵抗なく読むことができ、よい工夫であると思いました。

その中でも教育出版は、この教材で何を学んだかを話し合わせる部分もあり、よかったと思います。

光村図書は、「かぼちやのつる」だけでなく、全学年を通して長く親しまれてきた定番の教材を多く取り上げていますが、どの教材にも「考えよう・話し合おう」の欄を設け、その教材で学ぶべきめあてや問いがしっかりと記載されています。

考える柱を明確にすることで話合いがぶれずに、道徳的価値を見出しやすいと感じました。また、「つなげよう」という欄もありまして、授業で学んだことを実際の生活の中で生かせるように導いている点がよいと思いました。

次に、教科書の構成から、それぞれの工夫を見させていただきました。

まず、各教材における内容項目の分類については、どの者も記号や色分けなどで工夫をされているのですが、東京書籍は、目次とは別に1年間で学ぶことのページを設け、掲載している教材が4つの視点のどれかに分類され、どの内容項目がテーマなのかが明確になっています。

これにより、保護者も自分の子どもが教科書の教材を通してどのような道徳性を養うことができるのかということを一目で確認できるわかりやすい構成だと思いました。

また、学習の進め方については、どの者も巻頭に説明のページを設けていますが、東京書籍は挿絵を多用せず必要事項を簡単な文章で記しているため、すっきりしていて、わかりやすいと思いました。

最後に、各教材の分量についてですが、光村図書は、各教材

において考えるポイントがはっきりするように、原作にある不要な説明であったり、今の時代に合わない言い回しを極力省くような工夫が見られました。これによって、教材の文章量がちょうどよくなって、本文の読解が中心となるようなことが少なくなると思いました。

この他にも、光村図書は全学年にわたって優しい雰囲気の内挿絵と美しくて大きな写真が掲載されています。これらは、教材への興味・関心を抱かせるとともに、肯定的に入り込む助けになると思いました。

委員長 ありがとうございました。他にご意見は、井上委員。

井上委員 8者とも学習指導要領の求める「考え、議論する道徳」の授業の実現のために、発達段階に応じてさまざまな工夫がなされ、甲乙つけがたい仕上がりになっていると感じました。

その中で私が注目したのは、各単元の最初に書かれている表現です。何者かの教科書では、それぞれのタイトルの前に、その単元が求める道徳的価値感そのまま書かれているものがあります。例えば、「相手の立場に立って親切に」とか、「時と場をわきまえ、真心を持って」などという表現です。それらはいわば、これから触れる題材が求める結論といいますか、大人が求めているものになります。

そうすると、児童はあらかじめ、そういうことを求められているというふう感じて題材を読み進めていくことになる可能性があります。そういうことから、タイトルに添えてある言葉は、問いかけのようなものであったり、逆に何もなかったりするほうが児童の道徳的葛藤を生むには効果的ではないかというふう考えます。

そういう点から評価できるのは、光村図書出版、光文書院、学研教育みらいの3者であると思いました。光村図書出版

は、キャラクターから児童自身への問いかけの形でテーマを投げかけています。また、6年間を通じて、最初のところに、「みんな生きている みんなで生きている」というテーマで挿絵と言葉を載せているんですけれども、今言った言葉は共通なんですけれども、その後の文章については発達段階に応じて変わっていくというものです。

また、道徳の授業の意味であるとか、「話し合っ、演じて、読んで、書いて、考えよう」という学び方をわかりやすく示していたりする点も優れていると思いました。

さらに、QRコードを用いて朗読を聞けるデジタルコンテンツも利用価値があると思いました。

光文書院は問いかけの形で考えさせるようにテーマが示してあり、絵や写真が多くて、文字情報が多過ぎない工夫があると思いました。

学研教育みらいについては、教材を「私のこと」「あなたと私」「社会と私」「命や自然と私」の4つにシンプルに分けて、道徳的価値感を直接示すことなく、児童に感じ、考えさせる工夫をしていると思います。6年間を通じて、毎年、巻頭に今の私について書き込むコーナーがあることも評価できると思いました。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はありませんか。山田委員。

山田委員 道徳の教科書を見させてもらって、別冊の道徳ノートがあるものが何者かあるんですけれども、その中と、あと皆さんのお話を伺いながら感じたこととして、ツールが決まっていることというのは、教えることがどの先生にとっても比較的近い水準で保たれるという観点がある一方で、指導することが誘導されやすいという極めて表裏一体の部分があるんだなというのをす

ごく感じました。

私はどちらかというと、ツールが整っていたほうが同じものをどこで受けても受けやすいというふうなところに利点を感じたという部分はあったんですけども、確かに子どもたちの視点というところが広がる方向で考えていく観点も必要なんだなというのを今回感じた次第です。ありがとうございます。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はありませんか。一瀬委員。

一瀬委員 何人かの委員さんもおっしゃっていたみたいに、私も光村図書について、学習に入る前にキャラクターがさりげなく、ふわふわっと考えてほしいことを呼びかけているところ、決して価値観の押しつけではなくて、題材に入る前に児童自身が自分ならどんなふう考えるだろうかというようなことを、問題意識を持たせるような呼びかけをしているようなところが、これからその題材に取り組むに当たってとても有効ではないかと感じました。

また、教材の最後には理解をさらに深めるための問いとして、「考えよう・話し合おう」「つなげよう」というのが設けられています。また、教材文の途中で問いが設けられていたり、児童が題材を通して主体的に取り組んだり、理解がさらに深まるような構成になっているのではないかと感じました。

また、全体的にとっても優しい色合いと、それから、イラストもやわらかい感じがしまして、道徳というところを考えたときに落ちついた気持ちで学習活動が進められるような感じがいたしました。

委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますか。東委員。

東委員

地域の特性という観点からお話しします。

市内を走る江ノ電に関する資料が1者、東京五輪、ヨット、キエル兄弟など、オリンピック・パラリンピック関係の題材の扱いが全者、杉原千畝が4者で扱われています。オリンピック、パラリンピックの資料と、一言で言っても内容項目はさまざま、幅広く項目が設定されていました。そして、藤沢市内に一時期自宅があった杉原氏の資料は、主に人権や国際理解についての内容です。

光村図書出版では、杉原氏の人道的な行為だけではなく、阪神・淡路大震災の出来事を加え、社会・歴史、現代との結びつきを持たせた資料になっているのがよいと思いました。

本市とかかわりのある資料を取り上げることによって、児童がより身近なことと感じたり、深く考えたりして道徳性を養っていけると考えます。

委員長

ありがとうございました。他にご意見はございますか。田中委員。

田中委員

道徳の教科書を見たときに一番最初に思ったのが、どれも意外としっかり教科書なんだという、しっかり厚みがあってというのはちょっと驚きました。今意見がいろいろありましたけれども、タイトル、題名の導入部分を見て、そのテーマに対する価値感やイメージを特別なものにしない工夫をされている教科書は、子どもたちが発言しやすく、いろいろな意見が出る中で、自分と違う意見があったとしても、「そういう考え方もあるんだな」と素直に受けとめられることですか、いろいろな価値観、それぞれ1人1人違うんだよという気づきにも発展してほしいなと思いました。答えに向かって導いていくものではなくて、さまざまな意見が自由に出せるような授業であってほしい

と思います。

あともう1つ、光村図書出版で、「演じてみよう」というコーナーがあるんですけども、演じることで、そのときにどんな気持ちになったか、それを見ている、自分とは思っていない発言をしなければいけない場面もあると思うんですけども、そのとき、実際どういう気持ちになったか、そういう言葉を受けたときにどう感じたかということ自分の体で実感できるということはよいなと思いました。

委員長

ありがとうございました。他にご意見はございませんか。よろしいでしょうか。

それでは、これで本日予定された議題に関する審議は終わりましたけれども、全体を通して委員の皆様、何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。では、特になしということでございますので、次回の審議委員会の日程等について確認をいたします。

次回の審議委員会は7月12日金曜日、午前9時から、場所は藤沢市教育文化センター大会議室でと考えておりますが、日程等、よろしいでしょうか。

では、次回の議題について連絡申し上げます。

次回の議題は、令和2年度使用特別支援学校及び小学校もしくは中学校の特別支援学級用教科用図書の審議と、令和2年度使用中学校用教科用図書の審議についてとなります。

このことについて、皆様からご意見やご確認等はございますでしょうか。岩成委員。

岩成委員

中学校の教科用図書の審議についてなんですけれども、国からの通知によれば、4年間の使用実績を踏まえつつ、平成27年度採択における調査研究の内容等を活用することも考えられると示されております。

そこで、中学校の校長先生お2人には、現在使用している教科用図書について、各中学校の使用実績を教えていただけるとありがたいのですが、いかがでしょうか。

一瀬委員　私も今の意見に賛成しております。現在の状況を踏まえて、第3回で審議をしていくのが望ましいと考えております。

委員長　この件に関しまして、他にご意見はございますか。
それでは、中学校の井上委員並びに長田委員、今いただいたご意見についていかがでしょうか。井上委員。

井上委員　今のご意見に沿って、使用状況を確認して臨みたいと思います。よろしく願いいたします。

委員長　長田委員、いかがでしょうか。

長田委員　同様に、中学校の実績という部分をお伝えしながら審議に生かしていきたいと思います。

委員長　ありがとうございます。では、中学校の教科用図書の採択につきましても、4年間の使用実績を踏まえつつ、平成27年度採択時における調査研究の内容等を活用して審議を行うということによろしいでしょうか。

各委員　結構です。

委員長　では、第3回目につきましてもよろしく願いいたします。事務局から何か連絡等はありませんでしょうか。

事務局　特にございませぬ。

委員長

特にないということですので、本日は長時間にわたるご審議、本当にありがとうございました。

これをもちまして、第2回令和2年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を閉会といたします。本日はありがとうございました。

この会議の結果の記載に相違ないことを、確認する。

署名委員